

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

【問】市人権同和教育推進室（☎77・8842）



無関心

柳城中学校 1 年
坂口 春 さん

自分の目の前で起こっていることについて、見て見ぬふりをする、それは大きな問題です。

私は人権学習の授業で「わたしのせいじゃない」というスウェーデンの絵本を使って学習しました。この絵本は、一人の女の子が泣いていて、その女の子を囲んでいる14人の子どもたちが登場します。いじめの人、いじめを挑発する人、いじめを見て見ぬふりする人、いじめに無関心な人など、「わたしのせいじゃない」と言って責任逃れをします。この学習は、自分の行動や考え方を改めて見直すきっかけになりました。ぜひみなさんにも一度読んでほしい一冊です。

私はこの絵本をきっかけに、いじめについて考えました。「いじめはいけない」とみんな分かっているにも関わらず、いじめられたくない、仲間はずれにされたくないという思いが強まり、見て見ぬふりをしてしまうのだと思います。友達のことに関心になっっていることが一番の問題だと思いました。

その後、私たちの学年では、合同学活でレクリエーションを行いました。私はリーダーとして、クイズ大会とフールツバスケットを企画しました。そのときに気を付けたことは、みんなが楽しめる、仲良くなれるようにすることでした。クイズ大会では、問題の内容を学校や学年に関するものにして、みんなで相談できるよう考えました。また、話したことがない人とも話せるように、班分けをクラス混合にしたり、できるだけ同じ小学校出身ではない人を組み合わせたりしました。みんながとても盛

り上がってくれたので、本当にうれしかったです。

この活動をおして、私は「コミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。コミュニケーションをとれば、相手の考えや気持ちが少ないでも分かるようになります。私は初めて会った人や話したことがない人に対して、自分の勝手なイメージでとらえてしま

い、距離をとってしまっていることがあります。私はこのレクリエーションの時に他のクラスの人と初めて話すことができました。話したことがない人と話すということは、とても緊張することです。しかし、クイズやゲームと一緒にすることで、同じ学年の人のことを今までより知る機会にできたと思います。「コミュニケーションを積極的にすることで仲間との安心感を

持つことができました。安心感が深まると、クラスの中でも、自分から呼びかけたり、意見を言ったりすることができるようになり、無関心ではいられなくなりました。

【先生からの一言】
人権学習で気が付いたことを、自分のこととして捉えることができました。学んだことを、学級活動のリーダーという役割の中で実践できたことは素晴らしいことです。



●発行 柳川市 / 〒832-8601 福岡県柳川市本町 87-1
●編集 総務部企画課広報広聴係（直通）☎0944-77-8425 FAX74-5520
●URL <https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp> ●e-mail kouho@city.yanagawa.lg.jp

●発行日 令和 7 年 3 月 1 日
「広報やながわ」は、年齢や障がいの有無などを問わず、できるだけ多くの人が読めるように、ユニバーサルデザインを導入しています。

春の訪れ告げるさげもんめぐり開幕

「柳川雛祭りさげもんめぐり」の成功と安全を願う「おひな様始祭」が2月11日、日吉神社で開催されました。祈願神事後、稚児に扮した19人の子どもたちと3人官女、お内裏様お雛様役のカップルを乗せた山車が市内をパレード。子どもたちは終始笑顔で山車の上から観客に手を振っていました。

市の最新情報は公式LINEで発信しています。プッシュ通知なので情報を見逃すことなく便利です。ぜひ友だち登録をお願いします。



CONTENTS	ページ
写真と年表で振り返る合併 20 年の歩み	2~3
県知事選挙、税の届出ほか	4~13
水都 info、まちかどレポートほか	14~19
お知らせ掲示板、活動紹介ほか	20~27